

濱文庫所蔵唱本『改良文明棍新編』訳注

戚，世雋

九州大学大学院人文科学研究院招聘外国人教師：中山大学中国語言文学系：副教授

土屋，育子

佐賀大学文化教育学部：准教授

中里見，敬

九州大学大学院言語文化研究院：准教授：中国文学

<https://doi.org/10.15017/25160>

出版情報：文學研究. 109, pp.31-50, 2012-03-01. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン：
権利関係：



文学研究 第百九輯 抜刷
平成二十四年三月一日 発行

濱文庫所蔵唱本『改良文明棍新編』訳注

戚世雋・土屋育子・中里見敬

濱文庫所蔵唱本『改良文明棍新編』訳注

戚 世雋・土屋 育子・中里見 敬

【解説】

本稿は、九州大学附属図書館濱文庫所蔵の唱本『改良文明棍新編』（浜文庫／集164／59）に訳注を施したものである。二〇一一年度前期に戚が文学部で開講した「中国文学作品演習Ⅰ」において本テキストを講読した。その演習の内容を基礎として、土屋と中里見が整理・補充して草稿を作成し、戚の校閲を経て定稿とした。演習で講読を担当した太平倫嵩、今村彩乃、本田悠、李恬、古賀文也、およびティーチング・アシスタントとして授業全般をサポートした雁木誠の六名に対して、特に記して謝意を表したい。

本書は一冊全五葉、大きき31.1×9.8cm、匡郭内10.7×8.8cm、濱文庫所蔵唱本の標準的な大きさである。封面に「維新大皮包／改良文明棍／醒世金鐸」、版心に「良棍」。なお、同版のテキストが早稲田大学図書館風陵文庫（澤田瑞穂旧蔵）に二冊所蔵される（風陵文庫19 f0400 z0724、風陵文庫19 f0400 z0725〔集部第六曲藝唱本類時調小曲〕）

封面の「維新」「改良」は、甲午戦争（日清戦争、一八九四～九五）から百日維新（戊戌変法、一八九八）にかけて、康有為・梁啓超らの主張した変法運動で盛んに唱えられたことば。「大皮包」「文明棍」は、書類カバンとス

テツキで、当時の知識人の間で流行した持ちもの。張天翼「華威先生」（一九三八年初出。『張天翼文集』第四卷、上海文芸出版社、一九八五、二五八頁による）に、「他永遠挾着他的公文皮包。并且永遠帶着他那根老粗老粗的黑油油的手杖（彼はずつと書類カバンを小脇に抱えている。その上ずつとその太く黒光りしたステッキを持ち歩いているのだ）」という描写が見える。「金鐸」の鐸は、中国の古い楽器で鈴のようなもの。舌が銅のものを金鐸といい、木のを木鐸という。『周禮』『天官』『小宰』の「徇以木鐸（木鐸で広く伝える）」の鄭注には「文事奮木鐸、武事奮金鐸（政治・文化に関する命令は木鐸を鳴らし、軍事に関する命令は金鐸を鳴らす）」とある。また『論語』『八佾』に「天將以夫子爲木鐸（天は先生を人々に対する木鐸とされるつもりだ）」とあり、孔子が人々を教化する存在であることを木鐸にたとえる一文が知られる。ここでは「世の人々の目を醒ます金鐸」という意味。本作品は、全体として、当時の時流に乗って羽振りを利用させた者に対する諷刺である。したがって、本稿の注では語釈に加えて、当時の風俗・状況等が明らかになるようにつとめた。

押韻は、遙条轍（十三轍による。十三轍は、明清から北方の戯曲、曲芸等で押韻に用いられた十三の韻の分類）。押韻字には句点「。」を付した。原本には異体字・俗字が多用されている。本稿では多くの場合、常用の字体に直したが、異体字・俗字の後に（ ）を付して常用字を示したものもある。原本は末尾の書影をご覧いただきたい。

維新大皮包／改良文明棍／醒世金鐸

改良文明棍 新編

紅日東升漸（漸）高。晨鍾一声震醒了。这纔驚醒夢覺。哎么（哎么）。我这才驚醒夢覺。

急忙折起被褥、門前院後去打掃。急回来把火升着。哎么么么(哎么)。急回来把火升着。回手先温洗臉水、然後又把茶來燒。早晨飯也作熟了。哎么么么(哎么)。早晨飯也作熟了。吃完早飯沒忙事、独坐茅屋竟瞎聊。市井事写描。哎么么么(哎么)。市井事写描。富貴之人咱不表。浪蕩之人浮華学。把生計一筆勾消。哎么么么(哎么)。把生計一筆勾消。

〔注〕○合……「和」に同じ。文言での用例も多いが、俗曲では『白雪遺音』『孟姜女』に「只為夫妻情合義(ただ夫婦の情と義のために)」といった例がある。○早晨……「辰」は「晨」と通用。○独坐茅屋……「独坐茅廬」、「独坐茅亭」などとも言い、一種の定型表現。用例は詩文・白話小説いずれにも見える。明・管時敏「独坐」に「独坐茅堂上、長吟不下牀(ひとり茅堂にあつて、ベッドの上で長吟する)」。『喻世明言』第十三卷「張道陵七試趙昇」に「趙昇独坐茅屋中、只見一女子、美貌非常、走進屋來、深深道个万福(趙昇が一人茅屋に座っておりますと、とびきり美人の女が入ってまいりまして、深々と挨拶を申します)」。○学……押韻字であり、*xiào*と読む。○勾消……「勾銷」とも。もともとは公文書用語で、宋代から用例が見られる。宋・歐陽脩「論中書增官属主文書劄子」に「須是施行実迹、具以條聞、旋行勾銷、以見能否(実績となることを実行するときは、条文を詳しく聞き、行うか取り消すか、可否を見るべきである)」。『勾斷』も同じ。「一筆勾消」「勾銷」「勾斷」は、元曲に多く用例がある。「延安府」雜劇第二折冒頭のせりふに「如有班部監司、不才官吏、一筆勾消、永不敘用(もしも役人に才能のない者がいたら、すぐに取り消して、二度と用いませぬ)」。

〔訳〕

お日様昇つて高くなる、夜明けの鐘で目を覚ます。それでやつと眼が醒めた。アイヨーアイヨー。私はやつと眼が醒めた。

慌ててたたむ掛け敷きふとん、門前・お庭を掃除して。急いで戻つて火をおこす。アイヨーアイヨー。急いで戻つて火をおこす。

お先に洗顔用のお湯、それからお茶を沸かします。朝めしだつてできました。アイヨーアイヨー。朝めしだつてできました。

朝めし食べたらず特になし、狭いうちに座つて無駄話。世間のことを話しましょう。アイヨーアイヨー。世間のことを話しましょう。

金持ち衆はさておいて。遊び人などはうわつて。それで暮らしはおじゃんです。アイヨーアイヨー。それで暮らしはおじゃんです。

生意買賣全不顧、圧庄農職業俱取消。我看你怎麼養老。哎么么么（哎么）。我看你怎麼養老。

老誠樸寔嫌不好。一心要往改良学。混不好准混窮了。哎么么么（哎么）。混不好准混窮了。

外国衣服瞧只好。新式帽子扣脑勺。有手表他也代（戴着）。哎么么么（哎么）。有手表他也代（戴着）。

馬聚源帽子說不好。全盛時鞋哨不着。響皮底一走乱叫。哎么么么（哎么）。響皮底一走乱叫。

左手拿着飢慌棍、右手提着窟窿包。哨一哨准有当票。哎么么么（哎么）。哨一哨准有当票。

〔校〕○圧……「庄」に改める。○代……「戴」に改める。

〔注〕○混……いい加減に暮らす。○馬聚源帽子・全盛時鞋……馬聚源は清・嘉慶十六年（一八一二）創業、北京前門にある老舗の帽子店で、官吏御用達として発展した。当時北京のはやり言葉にも「頭載馬聚源、脚踩内聯陞、身穿八大祥、腰纏四大恒（頭には馬聚源の帽子をかぶり、脚には内聯陞の靴をはき、身には八大祥の服を着て、腰には四大恒の銭差を巻く）」、または「頭頂馬聚源、脚踏内聯陞、買包西鴻記（西鴻記のお茶を買い）、去洗東昇平（東昇平の風呂に行く）」と言われた（侯式亨編著『北京老字號』中国環境科学出版社、一九九一）。全盛は全盛斎という当時の靴屋。馬聚源・全盛斎のいずれも、光緒十二年（一八八六年）刊、李虹若著『朝市叢載』（当時の旅行ガイドブックのような書物）巻五「服用」に「涼帽（官吏の夏秋用の帽子）馬聚源 在前門外鮮魚口路南」、「布鞋 全盛斎 在前門外煤市街北口」とある。○左手く、右手く……類似した用例としては『文明棍』（風陵文庫1910400 20726）に「左手拿着文明棍、右手拿着大皮包」（左手にステッキ、右手にカバン）、「正手拿着打狗棍、左手提溜大蒲包（右手にイヌを追いかう杖を持ち、左手にガマの袋を持っています）」がある。○飢慌・窟窿……「飢慌」は「飢荒」とも表記する。もともととは凶作、飢饉のことであるが、転じて負債、借金もいう。『紅樓夢』卷三十六に「先時在外頭閑、那个月不打飢荒（外でお手当を払い出していた時は、借金をしない月はありませんでした）」。「窟窿」は穴、洞がもとの意味で、転じて負債、借金の意味もある。『岐路灯』卷三十に「那才是揭債還債、窟窿常在（それこそ金を借りたり返したり、借金はなくならぬ）。それぞれ両方の意味が掛けられていると考えられるが、ここではまず表の意味を示し、次の句で裏の意味を明らかにするという形をとっているであろう。○当票……「当票子」ともいう。質屋を「當舖」といい、質屋が出す証文つまり質札を「当票」という。前の二句の「飢慌」「窟窿」がいずれも借金の意味も持つので、それを受けて「きつと質札を持っているだろう」と言っ

ていると考えられる。

〔訳〕

生業なりわいまったく顧みず、野良の仕事もやめました。それで老後はどうするの。アイヨーアイヨー。それで老後はどうするの。

誠実・朴訥お嫌いで、ひたすら「改良」真似します。暮らしそこねりや貧乏だ。アイヨーアイヨー。暮らしそこねりや貧乏だ。

西洋の服はすばらしい、新式の帽子もかぶります。腕時計も付けてます。アイヨーアイヨー。腕時計も付けてます。

馬聚源の帽子はダメ。全盛斎の鞋も気に入らん。革の靴底やたらと響く。アイヨーアイヨー。革の靴底やたらと響く。

左に持つは乞食の杖、右に持つのは空のカバン。よく見りやきつと質札だ。アイヨーアイヨー。よく見りやきつと質札だ。

関東葉子嫌不好。呂宋炮台他說高。抽一天就得幾角。哎么〃〃(哎么)。抽一天就得幾角。
喝酒不喝中国酒、他說啤酒造的高。一揚脖就得幾毛。哎么〃〃(哎么)。一揚脖就得幾毛。
抽烟火烟嫌不好。一心要把嗎啡学。混身上扎成茄包。哎么〃〃(哎么)。混身上扎成茄包。
開宝搖灘全說小。一心要把麻将学。一個賀就是幾吊。哎么〃〃(哎么)。一個賀就是幾吊。
轎車騾子一齊挑。買個騎車也登着。騎不好摔个大包。哎么〃〃(哎么)。騎不好摔个大包。

〔注〕 ○関東葉子……「関東烟」（関東タバコ）のことで、中国東北部の遼寧、吉林、黒龍江、いわゆる東三省

で作られた刻みタバコ。老舎『四世同堂』（上海晨光出版公司、一九四六年版）第一部「惶惑」十八「金三爺的辦公處是在小茶館裏。泡上一壺自己帶來的香片、吸兩袋関東葉子烟、他的眼睛看着出來進去的人、耳中聽着四下裏的話語、心中盤算着自己的錢（金三爺の仕事場は茶館の中である。持参したジャスミン茶を入れ、関東葉子の煙草をたてつづけに吸いながら、目は出入りする人を見、耳で周囲の話を聞き、胸のうちでは自分の錢勘定をしているのである）。○呂宋……「呂宋烟」というフィリピンのルソン島産の高級葉卷。当時フィリピンは葉卷の一大産地であつた。葉卷を中国語では「雪茄烟」と言い、張天翼「華威先生」では冒頭で挙げた文のあとに、「……拿着雪茄的時候就叫這根無名指微微地彎着、而小指翹得高高的、構成一朵蘭花的図樣（葉卷を持つときは葉指を少し曲げ、小指を高く立てて、蘭の花のような形を作るのである）」と続いており、ステッキやカバン同様、当時羽振りを利かせた者たちの典型的な持ち物であつたことがわかる。○炮台……英美煙草公司（ブリティッシュ・アメリカン・タバコ。一九〇二年設立）が一九一四年に発売した紙巻き煙草の銘柄の一つ。「哈德門」「老刀」などと並んで「大炮台」「三炮台」といった「し炮台」という商品があり、「三炮台」は特に高級タバコとして有名。五十本缶入り五角、二十本箱入り二角であつたという（香烟与香烟画片<http://xh.sh-tobacco.com.cn/main/ActionCultureOut/getDetail?id=13>）。老舎「一筒炮台烟」（一九四三年初出）には「過了幾天、他已經幾乎把這件事忘得一干二淨了、友人來了、給他道謝。一邊說着話、友人順手的放下一筒儿炮台烟。」喝！炮台！「進一笑着說。」干什麼？」「小意思！」「友人也笑了笑。」送給你的！（數日して、彼はこのことを忘れてしまひそう

になったが、友人が彼にお礼を言いに来た。話をしながら、友人は無造作に炮台タバコの缶を置いた。「おや、炮台だ！」闕進一は笑いながら言った。「どういう風の吹き回しだい？」「気持ちばかりのものさ！」友人もちよつと笑った。「プレゼントだよ！」と登場し、那須清「北京に行ったころのこと」（『中国文学論集』十一、一九八二）にも「炮台」タバコの値段が高かったことが記されている。○啤酒……ビールは十九世紀末に中国に入ってきた。一九〇〇年には、ロシア人によって、ハルビンに最初のビール工場が建てられた。○一揚脖……頭をもたげること。酒など飲み物を飲むときの動作で使われることが多い。『紅樓夢』第三十八回に「鴛鴦笑着忙斟了一杯酒、送至鳳姐唇边、鳳姐一揚脖子吃了（鴛鴦は笑いながらいそいで酒を一杯注ぎ、熙鳳の口元に持っていくと、熙鳳は仰向きながら飲み干しました）」。○火烟……アヘン（鴉片）のこと。アヘンの害毒については、唱本でも多く取り上げられ、『姑娘喇大煙』（濱文庫／集163/5）、『烟鬼自嘆』（風陵文庫19/0400/2011）などがある。詳しくは、澤田瑞穂『中国の庶民文藝』（東方書店、一九八六）の上巻「清代歌謡雜稿」を参照。○嗎啡……モルヒネ。注射で投与される。アヘンから作られ、毒性はアヘンより強い。○包……できもの。あざ。たんこぶ。○開宝・揺灘……「揺灘」は「揺灘」とも表記。いずれも賭博の種類。賭け方には様々な説があるので、ここではその一部を紹介するにとどめる。「開宝」は「押宝」「庄宝」ともいい、銭か賭博用の道具を使い、その指し示す方向または場所を賭ける。「揺灘」は、「番攤」「攤錢」などさまざまな名称で呼ばれるもので、その起源は漢代にまで遡るという。まず銅銭または粒状のもの、竹製の短い数取り棒などをひとつかみして、壺状の容器の中に入れてすぐにふたをし、参加者に数を賭けさせる。ふたを開けて四つずつ分けて数える。つまり、四で割った残りの数が、一、二、三、四のいずれになるかを賭ける。また、「揺灘」には別のやり

方もあり、四つのサイコロを小さな壺に入れて振り、出た目によって勝ち負けを決めるものもあるようである。○賀……賭博の賞金・祝儀のこと。○吊……銭のひとつのこと。はじめのころは銅錢千枚を一吊としたが、のちに不統一になり、北京では銅錢百枚か銅元十個で一吊となったという。○轎車驢子……「驢子」は「ラバ」で、「轎車」はここでは「ラバが引く車」である。清末から民国初めには一般的な乗り物であった。『梅蘭芳舞台生活四十年』第四章 回憶四十年前的劇場「三 驢車」には、「民国以前北京城里的交通工具，除了騎牲口，就是坐驢車。驢車又名轎車（民国以前の北京城内での交通手段としては、（ラバなどの）家畜に（直接）乗る以外では、ラバ車がありました。ラバ車は「轎車」ともいいました）」とあり、「轎車」には「後檔車」「大鞍車」「小鞍車」といった等級があったという。土屋ほか「梅蘭芳『舞台生活四十年』訳注（三）」（『佐賀大学文化教育学部研究論文集』十五—一、二〇一〇）七四—七七頁参照。映画『梅蘭芳』（陳凱歌監督、二〇〇八年、邦題『花の生涯 梅蘭芳』）の冒頭に、梅蘭芳がラバの引く「轎車」に乗って劇場に駆けつけるシーンがある。○騎車……ふつうは「自転車に乗る」だが、ここは「自転車」であろう。自転車が中国に入ってきたのは光緒年間だという。

〔訳〕

関東タバコはうまくない。ルソンの葉巻・炮台タバコはすばらしい。一日吸ったら数角だ。アイヨーアイヨー。一日吸ったら数角だ。

酒は飲むけど中国の酒は飲まぬ、ビールの味こそすばらしい。一杯飲んだら数毛だ。アイヨーアイヨー。一杯飲んだら数毛だ。

タバコとアヘンどっちもいやで。モルヒネばかりやってます。それで全身青いあざ。アイヨーアイヨー。それで

全身青いあざ。

開宝・揺擺目もくれず。マージャンばかりやってます。それでご祝儀数吊だ。アイヨーアイヨー。それでご祝儀数吊だ。

ラバとラバ車は選り好み。自転車買つて乗ってます。下手で転んでたんこぶできた。アイヨーアイヨー。下手で転んでたんこぶできた。

飯店遊園也要去、戲館電影也要睇。小班裏也去跑”(跑)。哎么”(哎么)。小班裡也去跑”(跑)。

有錢他往頭等跑。錢少四等湊合着。楊梅疥招上來了。哎么”(哎么)。楊梅疥招上來了。

升天鼻子准爛吊(掉)。入骨疼的牙吡着。咧的响賽个破瓢。哎么”(哎么)。咧的咀賽个破瓢。

輕者一人上了套。重者又把妻子招。叫人家笑也不笑。哎么”(哎么)。叫人家笑也不笑。

有錢之時糟的好。沒錢主意興的高。祖遺產全都賣了。哎么”(哎么)。祖遺產全都賣了。

父母不在那還好。要有二老遭不遭。叫人家說你不孝。哎么”(哎么)。叫人家說你不孝。

〔校〕○吊……「掉」に改める。

〔注〕○飯店……ここでは、レストランを指しているのであろう。○遊園……公園、または多くの演芸が行われる

場所。北京では、前門の天橋、隆福寺などが有名。一九一八年、天橋にできた城南遊芸園は、京劇(女性役者中心の公演が評判だった)・評劇・大鼓書・文明新戲など様々な演芸、映画や手品が行われ、ローラースケート場やビリヤード場も併設された。入場料は二角で、一日中楽しめたという。参考: <http://forum.rbc..>

cn/thread-603918-1-1.html ○戯館……劇場。当時、京劇が庶民の娯楽の中心となっており、梅蘭芳・周信芳らが人気を博していた。北京の劇場としては、広和楼、広徳楼、中和園などが有名。また、二十世紀初頭から演劇改良論が叫ばれ、西洋に倣った新しい演劇——話劇の成立や京劇における改革などが試みられた時期でもあった。○電影……中国における最初の映画上映は、これまでの通説では、一八九六年八月十一日、上海の徐園における西洋映画の上演とされてきたが、近年の研究で、一八九七年五月二日上海のアスター・ハウス・ホテル（現・浦江飯店）における上演であることが明らかとなっている。詳しくは山本律「中国における映画受容——その揺籃期について——」（『演劇映像学 2009』早稲田大学演劇博物館グローバルCOE、二〇一〇）を参照。当時のチケット代は、上海の天華茶園で、一等が五角、二等が四角、三等が二角、四等が一角であったという。中国人による最初の映画製作は、一九〇五年の京劇「定軍山」（譚鑫培主演）である（程季華主編『中国電影發展史』第一卷、中国電影出版社、一九六三年初版、一九八〇年第二版）。○小班……ここでは妓楼のこと。民国期、妓楼には四つのランクがあり、上から清吟小班、茶室、下処、小下処といった。王書奴『中国娼妓史』（上海・生活書店、一九三四）には次のように説明されている。「北京における娼妓の状況はどうなのか。民国十八年（一九二九）の調査によれば次の通りである。／頭等妓院（清吟小班）、四十五軒、最も多いのは韓家譚、その次は百順胡同である。／二等妓院（茶室）、六十軒、最も多いのは石頭胡同、その次は朱茅胡同である。／三等妓院（下処）、一百九十軒、最も多いのは河里、その次は四聖廟である。／四等妓院（小下処）、三十四軒、最も多いのは樂培元、その次は黃河沿である。（計三百三十二軒）。○楊梅疥……「楊梅」は梅毒、「楊梅瘡」は梅毒のできもののこと。「楊梅瘡」とも。できものの形状が楊梅に似ているところからいう。類似した表現には、『文明棍』（風陵文庫19 f0400 z0726）に「楊梅大瘡長上了（梅毒のできもの）とある。○招……（病気が）伝染する、

うつる。○爛掉……腐敗してだめになる。腐り落ちる。○吡……齒をむき出す。齒を食いしぼる。○咧的咧、咧的咀……「咀」「咀」はいずれも「嘴」の異体字。「咧嘴」で齒をむき出しにする、口をゆがめること。○破瓢……「瓢」はひょうたんを半分に切つて作る「ひしゃく」「わりご」のこと。ここでは、齒を食いしぼるさまが割れたひしゃくのように見えるということであろう。○上套……わなにかかる。騙される。○糟……「糟蹋」と同じ。むだにする。浪費する。○二老……（老いた）父母。両親に対する敬称。○遭……（不幸や不利なことに）遭う。なお、「糟」に改めても意味は通るが、その場合は「両親がいればまずいことになる」といった意味。

〔訳〕

レストラン・公園行かなくちや、劇場・映画も見なくつちや。花街だつて行きましよう。アイヨーアイヨー。花街だつて行きましよう。

お金があるときや花魁へ。なければ女郎で間に合わす。梅毒さんよいらつしやい。アイヨーアイヨー。梅毒さんよいらつしやい。

上向きの鼻腐り落ち。痛みしみいり食いしぼる。お口はまるで割れびようたん。アイヨーアイヨー。お口はまるで割れびようたん。

軽けりやひとりでひつかかり。重けりや女房も道連れに。よそ様みんな笑つてる。アイヨーアイヨー。よそ様みんな笑つてる。

金があるときやなんでもいいが。金がなければよき名案。先祖の財産売っちゃった。アイヨーアイヨー。先祖の財産売っちゃった。

両親死んでりやまだいいが。二親いればたいへんだ。不孝者だと言われちゃう。アイヨーアイヨー。不孝者だと

言われちゃう。

自己落的没有告。媳婦直哭孩子嚎。你自己臊与不臊。哎么么么（哎么）。你自己臊与不臊。你也說是改良好。他也說是改良高。外国人錢掙跑了。哎么么么（哎么）。外国人錢掙跑了。人么（人都說改良好。依着我說守旧高。多儉省還去勤勞。哎么么么（哎么）。多儉省還去勤勞。粗布寥衣風不冒。粗茶淡飯充一飽。那就是自在逍遙。哎么么么（哎么）。那就是自在逍遙。閑来房中把子教。忙来營業去勤勞。勝似那一品当朝。哎么么么（哎么）。勝似那一品当朝。奉勸人么（人）歸正道。浮華遊蕩莫去学。才能夠有个下稍。哎么么么（哎么）。才能夠有个下稍。醒世箴規雖編好。一人買去衆人睨。奉直言喚醒同胞。哎么么么（哎么）。奉直言喚醒同胞。

警世格言 震醒同胞

完

〔注〕○落的……「落得」に同じ。「（悪い結果）ということになる」。○告……ここでは「訴える」「申し立てる」の意か。そうであれば、「訴えるところも無くなつて」となる。また、「靠」の誤りであれば、「頼るといふも無くなつて」という意味になる。ここではひとまず原文を改めず訳出しておく。○臊……はずかしがる。○粗布寥衣……「寥衣」は他に用例を見ないが、『北京土語辞典』（徐世榮編、北京出版社、一九九〇）には、「粗布聊衣兒（「聊」と「寥」は同音）：言其衣着朴素（衣服が質素であることをいい）、聊“字借用（「聊」の字は当て字）」と説明する。白話小説では「粗布衣服」での用例が多く見える。『喻世明言』第三十七卷「梁武帝累修歸極樂」に「誓畢、二人換了粗布衣服、粗茶淡飯、在家修行（誓い終わると、二人は質素な服

に着替え、食事は粗末なものにして、在家で修行を始めました」。○粗茶淡飯……質素な食事。早い用例としては、宋・黃庭堅「四休居士」詩の序文に「自號四休居士。山谷問其說、四休笑曰、粗茶淡飯飽即休（自分で四休居士と号していた。私山谷がそのわけを尋ねると、四休は笑って言った。「質素な食事で腹一杯になったらそれでやめるのです」）がある。○一品当朝……一品の位を得てまつりごとを行うことから、大臣の位を指す。『琵琶記』（陸貽典本）第十五出【北混江龍】「做不得卿相當朝一品貴（まつりごとを行う一品の高位につけぬとも）。○下梢……「下梢」とも。結果、結末。○箴規……訓戒、箴言。

〔訳〕

窮状を訴えるところも無くなって。嫁さん子供は泣き叫ぶ。恥ずかしくないですか。アイヨーアイヨー。恥ずかしくないですか。

あなたも言います「改良いいぞ」。彼も言います「改良すごい」。ガイジンさん金を儲けてずらかった。アイヨー。ガイジンさん金を儲けてずらかった。

みんな言ってる「改良いいぞ」。私に言わせりゃ「むかしがいい」。節約儉約仕事にはげむ。アイヨーアイヨー。節約儉約仕事にはげむ。

粗末な服でも風しのげ。質素なごはんで腹いっぱい。それで気分は自由で気儘。アイヨーアイヨー。それで気分は自由で気儘。

ヒマなら家で子に教え。忙しいときにや仕事にはげむ。大臣やるよりいい気分。アイヨーアイヨー。大臣やるよりいい気分。

みなさまにお勧めします正道を。ちゃらんぼらんの真似はだめ。そうしてやっものになる。アイヨーアイヨー。そうしてやっものになる。

世の人を覚ます箴言上手い出来。一人が買えばみんなで読める。直言もて同胞諸君の目を醒ます。アイヨーアイヨー。直言もて同胞諸君の目を醒ます。

警世の格言 同胞諸君を呼び覚ます 終わり

参考文献（注で記したものの以外）

- 『明清民歌時調集』下「霓裳續譜・白雪遺音」上海古籍出版社、一九八七年
- 『北京風物志』北京旅游出版社、一九八四年
- 陳文良主編『北京伝統文化便覧』北京燕山出版社、一九九二年
- 戈春源『賭博史』上海文芸出版社、一九九五年
- 郭双林・蕭梅花『中華賭博史』中国社会科学出版社、一九九五年
- 川床邦夫『中国たばこの世界』東方書店、一九九九年
- 華孟陽・張洪傑編著『老北京人的生活』山東画報出版社、二〇〇〇年

次頁以下の図版の掲載にあたり、九州大学附属図書館よりご厚意を賜った。記して深謝したい。



图2 第1集 a 面



图1 封面

早晨飯也作熟了了早晨飯也熟了
 吃完早飯做事事 独坐茅屋竟晴晴
 市井事寫描描 井市事寫描描
 富貴之人咱不表 跟湯之浮華孝
 把生計筆勾消消 把生計筆勾消消
 生意買賣爭傾傾 唐虞戰善俱取消消
 我看你怎養老老 我看你怎養老老
 老誠樸實嫌不好 一心要往改良學
 混不好非此窮了了 混不好非此窮了了
 外國衣服瞧得好 新式帽子腦勺
 有手表他也戴着着 有手表他也戴着着
 馬聚嫌字說不好 金盛時鞋則不着
 响皮底一走乱叫叫 响皮底一走乱叫叫
 左手斜看鉤慌棍 右手提着鑲鑲鑲

图 3 第 1 葉 b 面～第 2 葉 a 面

二
賄一賄准有票麼哄

閱東拿嫌不好 呂宋炮各他說萬

抽天就得凡角哄 抽天就得凡角

喝酒不喝中國酒 他說啤酒造的萬

一揚牌就得凡毛哄 一揚牌就得凡毛

抽烟火烟嫌不好 心要把嗎啡拿

混身上扎成茄色哄 混身上扎成茄色

開室搖灘金說小一心要把麻將拿

一個賀就是吊哄 一個賀就是凡吊

轎車驛子齊挑 買個騎車也登着

騎不好摔个大小哄 騎不好摔个大小

飯店遊園也要去 戏館電影也要睇

小班裏也去跑哄 小班裏也去跑

有錢他往頭等跑 錢少苦湊食着

圖 4 第 2 葉 b 面 ~ 第 3 葉 a 面

楊梅圻招上來了哎楊梅圻招上來了
 升天鼻子准爛吊八骨疼的牙吡着
 咧的噴寶個破獸哎咧的咀寶個破獸
 輕者八寸套重者又把妻子招
 叫人家笑也不笑哎叫人家笑也不笑
 有錢之時糟的好沒錢生意興的高
 祖遺產全都賣了哎祖遺產全都賣了
 父母不在那還好要有二老連不遭
 叫人家說你不孝哎叫人家說你不孝
 自己落的沒有告媳女真哭孩子嚎
 你自己躲与不躲哎你自己躲与不躲
 你也說是改良好他也說是改良高
 外國人錢掙足哎外國人錢掙飽了
 人都說改良好依着我說守舊萬

圖 5 第 3 葉 b 面～第 4 葉 a 面

多儉省還勤勞嘆多德省不去勤勞
粗布寒衣風不冒粗茶淡飯充一飽
那就是自登逍遙嘆那就是自存逍遙
閑來房中把字教忙來營業去勤勞
勝似那一品當朝嘆勝似那一品當朝
奉功人归正道浮華遊蕩墓墓子
才能夠有个稍嘆才能夠有个稍

醒世箴見維編子一貫去衆人睹
奉直喚醒同胞嘆奉直喚醒同胞

警世格言 震醒同胞

完

图 6 第 4 集 b 面 ~ 第 5 集 a 面